

しかはま自然観察会 <h1 style="font-size: 2em;">のらえもん</h1> 『人も 自然も みんなともだち !』No. 18	代表責任者 古高 利男 ☎270-1132 我孫子市 湖北台2-14-7 ☎09072759890 2011, 3, 11 (金)
---	---

第18回活動「あしペンで色紙をかいてみよう」

・・・「あし」って、な～に？どこにあるのかな？・・・

*日時：2011年3月5日（土）10：00～12：00

*場所：荒川ビジターセンター

*講師：荒川ビジターセンター勤務 浅羽様 横田様

*参加者： 家族 7 内訳 大人 7

小人 8

幼児 3

合計18

スタッフI総計 19



*活動のようす

荒川ビジターセンターは、北千住から歩いて15分のところ、千住大橋のすぐ下に、中央図書館といっしょになった建物の中にあります。その4Fが、荒川ビジターセンターの事務所と展示室になっています。展示室には、荒川にすむ生き物・・・魚、カニ、植物などがたくさんあり、手にとって調べることができます。資料もたくさんあります。浅羽様をチーフとしたスタッフの方々は、相談をするととてもいねいに教えてくれます。あしで作った笛がおいてあり、きれいな音が出ます。荒川の岸辺に生えている「あし」が、ちょっとした工夫で楽器にヘンシンするのですから、不思議でたまりません。

そして、作業をする場所は、5Fの研修室です。今回、「あしペン作り」をお願いしたところ、あらゆる材料・道具を人数分まで準備してくれていました。とても助かりました。ですから、ここにくると、心行くまで作業に集中できるということです。

さて、いよいよ活動です。

- ① まず、ペンの材料である「あし」を探しに、荒川へ行きました。枯れた棒のようなものが、川岸にたくさんあります。「どれがあしか、わかるかな？」と浅羽さん。「あしは、ヨシとも呼ばれています。茎の中が空洞になっているのがあしです。」「では、これは？」と、見た感じは同じものを見せてくれます。「中が、穴があいてないもの、これは茅（かや）といいます。屋根を葺くときに、昔はたくさん使われました」と、あしと茅のちがいを説明してくれました。
- ② あしがわかれば、それをとって軍手や濡れ雑巾できれいにします。葉っぱをとると、茎との間にたくさんのカイガラムシがついていました。これはオオヨシキリやその他の野鳥の大切なエサになっています。いい勉強になりました。「でも、羽もないのに、どうやって増えるのかな？」と、疑問がわいてきました。

- ③ いよいよあしペン作りです。あしを好きな長さに切って、切り口をペンのようにします。その真ん中に、1本だけ、カッターで切りこみを入れます。これで、出来上がり。
- ④ 字の太さは、切り口の先を平らにすることによって調整できます。
- ⑤ さーて、字を書く番です。紙コップに墨汁を入れ、それをつけて恐る恐る白い紙に引っ張ります。すると、「あっ、字が書けた」。
- ⑥ さあー、色紙に、好きな言葉や自分がつくった俳句を書いてみましょう。みんな、工夫をして、ステキな字を書いていました。まだ字を知らないマーちゃんは、ピカソのような抽象画を書きました。
- ⑦ 今度は、額のようにするため、あしと同じ所をとってきたセイタカアワダチソウの茶色い茎を4本、色紙に張り付けました。のりは、グルーガンという電気で温めながら出していくものを使いました。
- ⑧ つりさげるために、上のところを穴あきパンチで2個、穴をあけます。そこにシュロ縄を通して、ハイ出来上がり！
- ⑨ 最後に、できた作品を、みんなで見せあい、工夫を学び合いました。
- ⑩ そして、名前を書いた一番下に、落款を押すはずでしたが……。その落款づくりのための篆刻彫りを3月12日に予定していましたが、11日の大地震のために中止を余儀なくされました。

あし (葦、またはヨシともいう)

イネ科の多年草。水辺に自生。世界でもっとも分布の広い植物のひとつ。

茎の中は空洞。

水辺の浸食を防いだり、野鳥や昆虫の生育場所にもなる。

茎ですだれ(簾)をつくり、日よけにする。

渡良瀬遊水地のヨシ焼きは有名。

かや (茅、萱)

屋根を葺くのに用いる草本の総称。チガヤ、スゲ、ススキなど。

神社の屋根は、これを使う。

茎の中は、詰まっている。

茎ですだれをつくり、日よけにする。

近年、屋根葺き・建築資材・堆肥・エネルギーとして注目されている。

せいたかあわだちそう (背高泡立草)

キク科の多年草。北アメリカ原産の帰化植物

荒地や植生の破壊されて場所に侵入し大群落をつくる。

駆除とともに、利用方法の考えが待たれる。